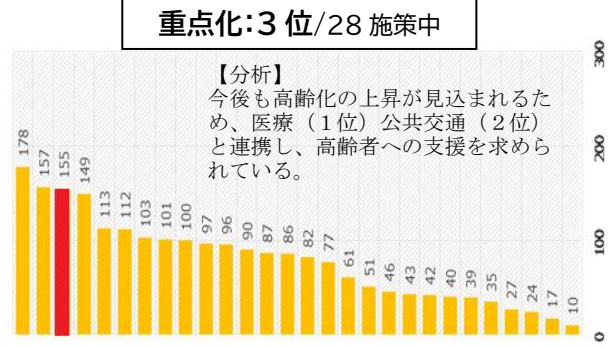
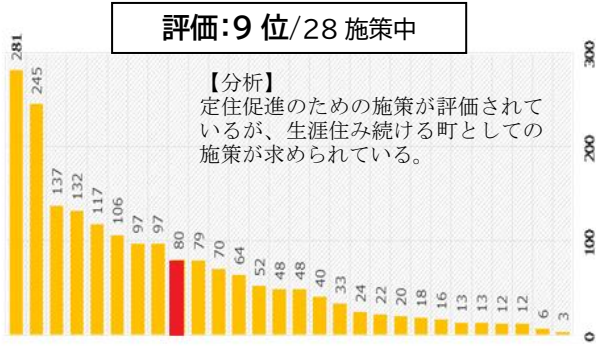
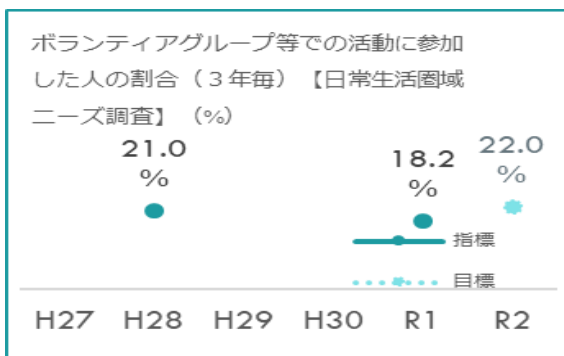
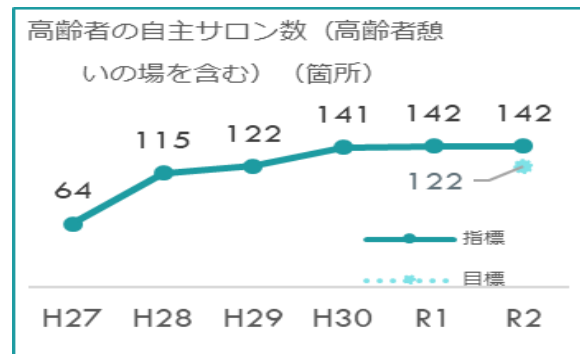
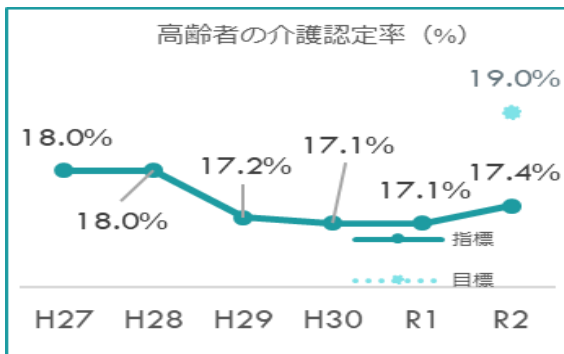
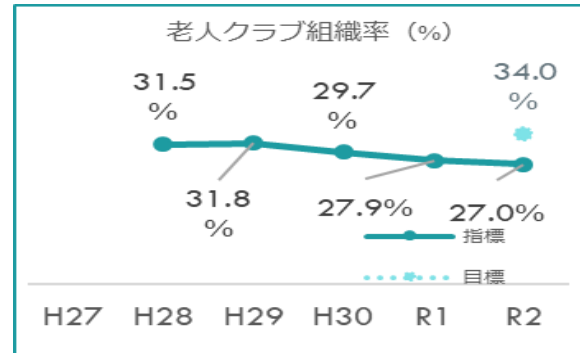
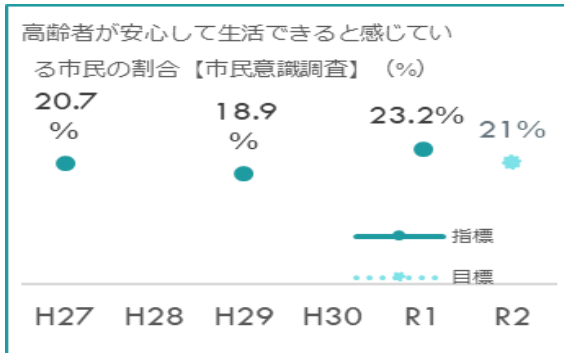


④ 高齢者への福祉の充実 <<評価：62.5点>>

市民意識調査結果



施策成果指標



成果指標の妥当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		2	2	3	3	3	2
市民委員意見	成果指標の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当と考える。 ・妥当である。 					
	目標値の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定が低いように思う。 ・目標設定の根拠が分かりにくい。 ・高齢者が安心して生活できると感じている市民の割合（市民意識調査）の目標値 21%は低すぎる。 					
事業構成の妥当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2	2	3	3
市民委員意見	事業は施策の成果を上げるのに適しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・よくやられているのではと思う。 ・3年後、5年後も変化や改善点を見つけることができるのか。 ・一般的な事業は適している。 					
施策の有効性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		2	2	3	2	2	2
市民委員意見	目標値の設定は妥当か	特に意見なし					
	指標分析は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・分析によって得られる情報がどれだけの不明。 ・評価が通り一遍で説得力に欠ける。 					
進行年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2	2	3	2
市民委員意見	課題を把握しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・把握はしていると思う。 ・把握している。 					
	課題解決に向けての取組は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・「日常生活支援」をもっと具体的に進めたらどうか。 ・認知症初期集中支援チームはとても良いと思う。 					
翌年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	3	2	3	2
市民委員意見	今後の取組は総合計画の目標とする姿に向かっているか	<ul style="list-style-type: none"> ・向かおうとはしていると思う。 ・方向性は良い。 					
	取組は市民ニーズをとらえているか	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方々がどう過ごしていきたいのかを把握する必要がある。 ・高齢者が安心して生活できると感じている市民の割合（市民意識調査）が 23%という結果で、ニーズを捉えていると言えるのか。 					

市民委員から見た課題

- ・ 寺山地区通院交通費補助事業について、通院に不便な地区は他にもあり、制度改正を検討とあるが、数年来状況が変わっていない。
- ・ 一般介護予防事業で高齢者同士の支え合いの意義は理解できるが、若い世代を巻き込むことも有効ではないか。
- ・ 自身、老人クラブに勧誘されたことがなく、活動内容も知らない。勧誘方法等の実態調査が必要。
- ・ 老人クラブの組織率が目標値に達しないのは、周知が足りず、また会員以外でも事業に参加できることが原因ではないか。
- ・ 成果指標である「高齢者が安心して生活できている市民の割合」の結果についての分析（コメント）が評価シートに表現されていない。何で安心できないのかという分析をしなければ、目指すべき100%を目標値と書けない。
- ・ 公平感に欠ける事業については、よく検討すべき。
- ・ 委託、助成事業が適正に執行されているかを委員が判断する材料を示して欲しい。

長期的に取り組むべき課題

- ・ 高齢化が進むなか、高齢者の方々がより生きがいを持って過ごせるよう取り組んで欲しい。
- ・ 地域サロン、その他公民館活動に参加する高齢者を老人クラブへ勧誘し、会員を増やしてはどうか。
- ・ 健康寿命の延伸施策の更なる推進。
- ・ 大阪府の堺市は関西大学との連携により座ってできる体操などのメニューを多く用意しているので、連携先を検討し、メニューを増やしてみてもどうか。

委員会後の担当課対応

- 寺山地区通院交通費補助事業について、通院に不便な地区は他にもあり、制度改正を検討とあるが、数年来状況が変わっていない。
⇒ 寺山地区通院交通費補助事業については、利用者がいる間は事業を継続し、利用者がいなくなった時点で廃止の方向で検討していく。
- 一般介護予防事業で高齢者同士の支え合いの意義は理解できるが、若い世代を巻き込むことも有効ではないか。
⇒ 高齢者が地域社会の一員として自分らしく暮らし続けられるよう、多様な社会参加と世代間交流を推進していく。